

森林やまがた

No. 47

2001 2月



寒伐り：鶴岡市三瀬

目次

寒伐り	1
緑を守る私たちの活動	2
根あればこそ	3
新たに9名の林業士が 認定される	4
「林政改革大綱」の概要	5
森林づくり体験に 300名が参加	6
現地ルポ	
治山事業による木材利用事例等	8
抵抗性クロマツの選抜	9
山形県の名水・湧水	10
山形県の古木・名木	10
山形県木炭品評会のご案内	11
炭焼き体験ツアーのご案内	11
山形県治山林道 研究発表会のご案内	12
木材市況	12



第53回全国植樹祭

感じていますか 森があるしあわせ

活動の少年団報告



緑を守る私たちの活動

河北町みどりの少年団

団長 六年 岡崎 千尋

私たちは河北町みどりの少年団は、谷地西部小学校の三年生から六年生までの五十一名で様々な活動をしています。

一つめは、紅花栽培と紅花染めです。紅花は河北町の花で、毎年町内のいたる所で栽培されています。

五月、紅花栽培が始まります。町の栽培園を借り、紅花の種を植えます。縦割り班に分かれ、上級生が下級生の面倒を見ながら、一粒一粒ていねいに種をまきます。その後、間引きをした雑草を取ったりしながら大切に育てます。

約二ヶ月が過ぎ、花が咲くと今度は紅花摘みです。とげから

手を守るためにゴム手袋をして仕事をします。摘んだ花びらを乾燥させ、紅花染めの材料となる紅餅を作ります。

一月になると伝統的な紅花染めを体験します。赤や黄色に染まったハンカチが出来上がった時は、すごく晴れ晴れした気持ちになります。機会があったら皆さんも染めてみて下さい。

二つ目は、福助菊栽培です。一人二はちずつ植え、毎日朝夕方に水をかけてあげます。福助菊には、赤と白と黄色の三色の花があります。花の咲く時期が近づくと、自分の福助菊は何色の花が咲くのか、とても楽しみになります。

福助菊が咲くと、私たちは、これらの花を役場や給食センター、老人ホーム等に送って、約一ヶ月間飾ってもらいます。毎年たくさんの人から喜んでもらえるので、わたしたちも嬉しくなります。

三つ目の活動として、今年も県の育樹祭に参加しました。私たちの代表として五年生十二名が、木を植える作業を手伝いました。早く大きくなってほしいと思います。一生涯懸命仕事をしました。

四つ目の活動は葛の実取りです。近くの山にみんなまで歩いて行き、縦割り班に分かれて葛の実を集めます。どの班がたくさん集められるか競争しながらやります。集めた葛の実をたるに移して乾かし、さらに葛の実の中から種だけを取り出します。小さな実から一つ一つ種を取り出す根気のいる作業ですが、み

んな頑張ってやります。取った種は鳥取県の砂漠研究所に送られ、中国の砂漠を緑にするために使われます。私たちが取った葛の実の種が砂漠化防止に役に立っていると思うと、とても嬉しくなります。



「1つぶ1つぶ ていねいに」 葛の実から種取り

私たちの周りには自然がたくさん残っています。そして私たちはこれらの自然が大好きです。私たちは、緑を愛する心を持ち続け、このきれいな自然をこれからも守っていきたいです。



根あればこそ

酒 田 市

樹木医 渡 部



新しい世紀の幕開けとなりました。環境問題の新世紀ともいわれますが、環境問題は良好な環境の創出、破壊された環境の修復、良好な環境の保全の三本の柱であると考えます。

「緑」は、わたしたちの住む街を守り又快適な場所を与えてくれます。気象をやわらげたり、汚れた空気をきれいにしてくれたり、騒音を防いだり、街を美しく季節感を感じさせ、快適に心をいやしてくれます。

快適な生活空間を創造してゆぐために、益々「緑」の重要性が増してきております。二十世紀後半からは「緑化」の仕事が「緑花」の仕事と変わってきました。花を使った緑花工事、いわゆるガーデニングが盛んになってきております。自然を生かした落ち着きと、安らぎを与えてくれます。子供から老人まで

一緒になって出来る環境づくりは、大変すばらしい光景となり、又明るい街づくりの橋渡しになっているのは事実かと思えます。私は、樹木医としてばかりでなく緑花工事の専門業者として最近一番身近に感じるのは、根の大切さと土は生命の源であると考えております。樹木や草花は土によって育てられています。自然界では落ち葉、枯枝、樹皮、枯れた植物や草食動物の糞、昆虫の死骸等が土壌微生物等の働きで分解され植物に再利用されるサイクルが成立しています。

植物自身も土の中にどんな根を伸ばし養分を吸収します。植物は土のお世話になり生命を支えているのです。たとえば森林の中を歩いてみると、落葉、落枝に覆われてふかふかした土に出会えます。街の中の土とは違う柔らかさであります。やはり

自然に近い土づくりが草花や樹木を育てる基本ではないでしょうか！酒田市でも樹齢数百年のタブノキ等の樹勢の衰退と幹枝の損傷が目立つようになり、タブノキ本来の厚い革質で表面が光沢のある葉の大きさも小さく葉色も黄色化するなど衰退が見られます。道路拡張や都市計画等で既存した樹木の植樹枿がひんぱんに狭くなつてきております。家を建てるときに、基礎工事がしっかりしないと地震や台風等に耐えられません。植物も



樹勢が回復した樹齢数百年のタブノキ

同様に最初にしっかりと腐植質の多く含まれているふんわりした土に根を張らせないと幹、枝、葉、花等が健全に生育しません。根は目に見えない土の中で地上部を支えている植物の屋台骨であります。樹木の幹の太さ、樹木の高さや枝張りにあつた植樹枿の確保、又人や車による踏圧等での根の傷み等、根の保護を充分考えないと大切な樹木は正常な生長が見られないと思います。「根あればこそ」私は、すこやかな生長が生まれるのは、しっかりと根の張る環境が確保できる事ではないだろうか。街の中の大切な樹木の保護のためもう一度見直しをして、古木、老木を大切に育てていきたいものと考えます。

樹木は街の中では育つものではなく、育てるものと思えます。正常な根を四方に伸ばすことによつて枝が四方に張り、葉がつき、そして幹が太くバランスのとれた樹木になるのではないだろうか。「根あればこそ」植物はすくすくと生長します。

新たに九名の林業士が認定される

地域林業のまとめ役として期待

地域林業の活性化を図るうえで、指導的な林業者の確保と林業活動の活性化を図ることが重要になっており、このたび、新たに九名の山形県林業士を認定しました。

「山形県林業士」は、林業経営に携わって十年以上の経験を持ち、県が主催する林業教室専門コースを終了し、地域林業の中核的指導者として熱意のある方を対象としており、市町村長の推薦をもって、山形県知事が認定するものです。

今年度は、それぞれの市町村長から推薦のあった林業経営者を対象に、七月二十七日から二十八日までの二日間にわたり、森林・林業に関する行政政策を

はじめ、森林・林業に関する技術全般について研修を行い、基礎的な知識を身につけていただきました。

林業士認定証授与式は、十一月二十二日（水）、県庁講堂で開催された第五十回山形県農林水産祭典式場で行われました。山形県農業賞、林業賞等の表彰の後、指導農業者、青年農業者、青年漁業士及び指導漁業士とともに、林業士の認定証が知事から交付されました。

今回、新たに認定された九名の林業士の林業経営については、下記に簡単に記載してあります。各林業士とも、地域林業の推進役として林業経営を実践しており、森林林業の普及啓発活動等

に取り組んでいます。

これまで、昭和五十五年度から平成二年度までに八十九名の林業士を認定してきましたが、健康上の理由等により辞退者があり、既認定者が六十五名という状況でした。今回、新たに認定された九名の林業士が加わり七十四名になり、各林業士が地域林業の振興発展に大いに寄与することを期待しています。

〔県森林課〕



平成12年11月22日、山形県農林水産祭典での認定証授与式

平成12年度 山形県林業士新規認定者

認定番号	氏名	年齢	市町村	森林経営面積(ha)	林業経営の特色
90	佐藤 政巳	47	上山市	11	アケビの人工栽培で、棚栽培の先駆者として生産拡大に貢献し、また、優良材生産に努める。
91	宮林 茂春	63	西川町	20	計画的に造林を行い優良材生産に努めるかたわら、次代検定林を設置し研究している。
92	須藤 和幸	49	村山市	2	原木ナメコ、山ぶどうを栽培するなど複合経営に努め、また、山づくりの楽しさを普及する。
93	庄司新之助	64	真室川町	15	大径材生産を目標に育林作業を実施している。県林業グループの副会長として活躍している。
94	伊藤健一郎	55	鮭川村	1	水稲と原木シイタケの複合経営で、原木シイタケは年間植菌本数10,000本を栽培している。
95	黒田 幸治	41	米沢市	50	長伐期大径材生産に努め、その材料を利用しながらログハウスを製作、指導している。
96	山口 八郎	66	飯豊町	52	広葉樹林造成に努め、また、雪室を利用した特用林産物の販売を研究中である。
97	加藤 周一	45	鶴岡市	70	長伐期大径材生産を目標に自立した林業経営を目指し、住宅の材料を産直生産販売している。
98	宮守松右エ門	53	鶴岡市	50	長伐期大径材生産を目標に育林作業を実施し、特に間伐では収益性間伐に力を入れている。

「林政改革大綱」の概要

林政の新たな展開については、12年10月に林政審議会の報告が取りまとめられ、その後、政府・与党間で、林政の抜本改革に向けた精力的な議論が進められてきました。その議論を踏まえ、農林水産省は去る12月7日に、「林政改革大綱」及び「林政改革プログラム」を取りまとめ、公表いたしました。この大綱、プログラムは、21世紀のはじまりに当たっての林政の指針となるものであり、今後、林政改革は新たな基本法案の策定をはじめとする政策の具体化の段階となります。

地方自治体や林業、木材産業関係者はもちろん、森林・木材を利用される方々も含め、国民の皆様には、大綱に盛り込まれた改革の理念や基本的施策の方向について、ご理解をいただき、その具体化にご支援・ご協力を賜りますよう、お願いいたします。

大綱、プログラムの概要は以下のとおり。

I 林政改革大綱の概要

1 基本的考え方

- (1) 木材生産を主体とした政策を「森林の多様な機能の持続的な発揮を図る」ことを目的とした政策に転換し、以下を基本として施策を展開
 - ① 多様な機能の持続的な発揮のための適切な森林の管理
 - ② 森林資源の持続的な利用を担う林業・木材産業の発展
 - ③ 山村の振興
- (2) 森林の多様な機能の持続的な発揮のため、関係者がコスト削減等を図りつつ努力を行っていく指針として、森林の整備及び森林資源の利用に関する目標の設定を検討

2 具体的な方向

- (1) 多様な機能の発揮のための森林の管理の推進
 - ① 森林整備の方向を明確化し事業の重点化を図るため、重視すべき機能に応じた森林の区分（水土保全林、森林と人との共生林、資源の循環利用林）の実施
 - ② 抜き伐りを繰り返しつつ徐々に更新を図っていく施業と緊急間伐の推進
 - ③ 森林所有者の森林管理の責務の明確化と森林所有者に対する勧告等の措置の強化
 - ④ 森林環境教育等森林の新たな利用及びこれに対応した森林整備の推進
 - ⑤ 森林整備の社会的コスト負担のあり方等の検討
- (2) 森林の管理と森林資源の持続的な利用を担う林業の振興
 - ① 地域林業の担い手（林業経営体、林業事業体）の育成・確保と受託による施業・経営の集約化、森林組合を効率的な事業体として育成するとともに地域の森林管理を担う組織として機能を充実
 - ② 林業税制のあり方の検討
 - ③ 多様なルートを通じた林業就業者の確保・育成と雇用の促進
 - ④ 林道等の整備の重点化、高性能林業機械の導入と技術開発の推進
 - ⑤ 生産技術・品質管理の高度化、産地表示の適正化等を通じた特用林産の振興
 - ⑥ 林業構造改善事業の見直し
- (3) 森林資源の持続的な利用を担う木材産業の振興
 - ① 乾燥材等品質・性能が確かな木材製品の供給体制の重点的整備
 - ② 原木の安定供給体制の整備（川上と川下の連携強化）

- ③ 情報技術の活用等による木材流通の合理化
- ④ 住宅、公共部門等での地域材の利用推進
- ⑤ バイオマスエネルギー等木質資源の多角的利用の推進
- (4) 公的関与による森林の適正な管理
 - 公益的機能の発揮が求められるものの、森林所有者等が自助努力を行っても林業生産活動のみでは適正な整備が進み難い森林における公的関与による森林整備
- (5) 森林・林業・木材産業に関する研究・技術開発と普及
 - 課題に対応した効率的・効果的な研究・技術開発等と普及事業の展開
- (6) 国有林野事業改革の着実な推進
 - 公益的機能を重視した管理経営への転換、組織・要員の合理化・縮減等の推進
- (7) 山村の活性化
 - ① 関係省庁との連携による山村の定住条件の整備
 - ② 森林の適正な整備のための地域による取組を推進するための措置の内容の検討
- (8) 森林組合系統組織の見直し
 - 森林組合の合併、透明性を確保した組織運営体制、系統組織の再編・整備の推進

II 林政改革プログラムの概要

新たな政策を推進するため、平成13年の通常国会に向け、新たな基本法案を取りまとめるとともに、個別政策の平成13年度から平成17年度までの5か年間の取組を定めている。なお、本プログラムは、今後、定期的に政策の効果を検証し、必要な見直しを行うこととしている。

〔林野庁企画課〕

林業公社造林地をフィールドとし、森林作業体験等により森林ボランティアを育成する「ゆとりの山づくり事業」等の「森林づくり体験」を、県内各地で八回開催しました。

普段森林に入ることの少ない人たちが鎌や鋸をもって汗を流し、昼食時には持参した手弁当と地元の人達が心を込めて作った山菜汁・キノコ汁を片手に作業の跡を振り返りながら、山に苗木を植えるだけでは林にならないことや、広葉樹林と針葉樹林が共存してこそ森になることなど、作業体験を通して話し合っている姿が数多く見られました。

中には、木を切ることにより



女子学生も積極的に参加

自然環境が破壊され、地球温暖化につながるという若い参加者と、森林からの贈り物として立木を収穫し経済的価値を得るところが森林の役割だと主張する山村住民の討論会となり、たまたま参加していた大学教授による薪炭林として利用していた

森林づくり体験に三〇〇名が参加
学生・生徒を中心に県外からも

時代にまで遡る「山村経済史」の講義の様相に発展したこともありました。

水源の森でもボランティア

今年度創設された「水源の森整備事業」の一環として、飯豊町白川ダム上流の中津川林道周辺で、西置賜地区の人達や山形市内の高校生が多数参加して、スギ林の枝打作業を実施しました。老若男女が互いに協力しながら黙々と枝を切り落としていく姿は、普段の山仕事ではめつたに見られない清々しい光景でした。

全国の建築系の大学、専門学校の学生たちが木造建築を学ぶ目的で北村山地区に集まった「木匠塾」の参加者が、森林づくりに参加したことも今年度の新しい動きでした。当日は台風三号による荒天に見舞われ、思



森林ボランティアによる枝打作業(水源の森)

う存分作業できなかったこともあって、新春早々、来夏には是非リベンジしたいとの照会をいただいております。また、毎年尾花沢市で森林づくり体験をしている東京の中学校の保護者の皆さんが、森林インストラクターの指導を受けて子供たちが自分で切った木でクラフトを作り土産に持ち帰った広葉樹林や、手入れをした山の様子を視察に

現地を訪れ、地元との交流を深める様子も見受けられました。

作業後は自然観察会も

庄内地区においても、初夏の山道の刈払い作業から晩秋の枝打作業まで様々な体験を実施しました。遊佐町在住の草木旅人(土門尚三氏)を講師に迎えた自然観察会では、ユーモアたっぷりの植物紹介や、海拔0m地帯の酒田東高敷地内でブナが順調に生育していることからみて、標高差による気温低下の関係を考えれば、ブナ帯の消滅は世情言われているほど早い時期とは考えられないといったユニークな発想が示され、和やかなひと時を過ごすことができました。このように、森林づくり体験は、多くの人々の参加により、複数回数参加するリピーターや、先輩から後輩へと引き継いで行

く大学生・高校生が増えていることもあって、すっかり定着しました。



和気あいあいの自然観察会

来年度も森林・林業に関心のあるより多くの人達に参加して頂けるよう、受け入れ態勢を整備し、参加者の技能レベルに合った様々なメニューを企画して森林づくり体験を進めてまいります。

〔山形県林業公社〕

現地ルポ

治山事業による木材利用事例等

(チップマルチング等)

最近、持続可能な森林経営、循環型資源の利用促進、環境負荷の少ない資材の開発等が求められています。そこで、今年度間伐材の有効利用、雪害木、松くい虫の被害対策としてチップの有効利用を図った事業を実施したので紹介します。

白鷹町教育の森(大字鮎貝)

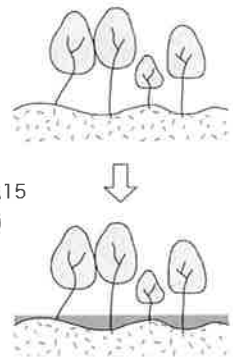


マルチング(被覆)

最近、持続可能な森林経営、循環型資源の利用促進、環境負荷の少ない資材の開発等が求められています。そこで、今年度間伐材の有効利用、雪害木、松くい虫の被害対策としてチップの有効利用を図った事業を実施したので紹介します。

において、遊歩道五百m、低木植栽区域八百m²について、それぞれ敷厚十五cmでチップを敷き詰めています。このチップは移動式のチップパーと呼ばれる機械で松材や杉材を粉碎したもので、いわゆるパルプ原料用チップとは大きさ、形も異なり、縦長で、小さく、薄い形状です。そのため、遊歩道では、フワフワと柔らかく、足首に負担のかからない路盤材と好評です。林内においても、樹木間に敷き易く、隙間なく施工でき、マルチング材としてかなり有効であると考えられます。小苗木を整備した地区では下刈り等維持管理作業の軽減効果が期待されます。

また、森林浴を楽しむ人が遊



歩道から林内に違和感なく自由に移動することができ、流行のバリアフリー資材として、遊歩道と森林が一体となった施工事例です。

飯豊町源流の森(大字須郷)

でも、三百m²程度植栽木の周辺を中心にマルチングを実施しています。雑草等の繁茂が無いため、景観上もかなり有効な施工事例です。また、ここでは、平成十三年度山形県植樹祭の開催

が予定されています。

また、広葉樹植栽の障害である誤伐防止と下刈り作業の軽減等に有効とされる試験(ビニール被覆1m²)が森林研究研修センターにより、飯豊町大字高峰で実施されています。これは、農業用シートを利用し、特殊な目クシで押さえるという簡単な方法で、今後毎年効果を確認し資材の選定等改良を加えていく予定です。

(西置賜地方事務所林業振興課)



国森林研究研修センターからのお知らせ

抵抗性クロマツの選抜

◆マツノザイセンチュウに強いクロマツが欲しい

県内の松くい虫の被害は、平成七年度を境に減少傾向にありますが、依然として松林の脅威となっています。特に、庄内地方の産業と生活を守る海岸林はクロマツ以外の樹種での造成が難しいため、マツノザイセンチュウに強いクロマツの誕生が待たれています。

そのためマツノザイセンチュウ病抵抗性育種を平成四年度から実施しているため、抵抗性クロマツ選抜の概要について紹介します。

◆抵抗性クロマツの候補木を探して
松くい虫被害の激しい林の中から、健全で樹齢の高い木を抵

抗性候補木として、平成七年度から平成十一年度までに六十四本選抜しました。

選抜した候補木からつぎ穂と種子を採取して苗木を養成し、順次接種検定（一次検定）を行っています。

◆一次検定合格木とは

平成十一年度は五候補木（実生苗検定三候補木、つぎ木苗検定二候補木）の一次検定を行い、四候補木について抵抗性があると評価されました。（一次検定合格木）これらについては、検定の精度を高めるため国が再検定（二次検定）を行い、その結果抵抗性があると評価されれば、抵抗性個体としてそのクローン苗木で抵抗性採種園を造成し抵抗性

苗木を供給することになります。

◆暫定採種園の造成にむけて

国の二次検定の結果が判明するまでは数年かかるため、一次検定合格木による暫定採種園の造成や苗木の供給が認められています。そのため、県ではより抵抗性の高い苗木を供給できるように一次検定合格木について独自に二度目の接種検定を行い、暫定採種園造成用の個体を選定しています。本年度の検定では山形クロマツ七号が選定されました。

◆抵抗性クロマツの選抜

本年度は新たな一次検定合格

木はありませんでしたが、抵抗性のある苗木をできる限り早い時期に供給可能となるよう、抵抗性クロマツの選抜を進めていきます。

平成11.12年度の接種検定結果

○合格、×不合格

区分	候補木名	選抜年	H11	H12
実生苗	山形クロマツ6	8	○	×
	山形クロマツ7	8	○	○
	山形クロマツ8	8		×
	山形クロマツ9	8		×
	山形クロマツ10	8	○	×
	山形クロマツ11	8		×
	山形クロマツ12	8		×
	山形クロマツ21	9		×
	山形クロマツ24	9		×
	山形クロマツ25	9		×
山形クロマツ26	9		×	
つぎ木苗	山形クロマツ6	8		×
	山形クロマツ10	8		×
	山形クロマツ11	8	×	
	山形クロマツ12	8	○	×
	山形クロマツ14	8		×
	山形クロマツ17	9		×
	山形クロマツ18	9		×
山形クロマツ19	9		×	



マツノザイセンチュウの接種



この泉は、奥州信夫郡の領主である佐藤庄司基晴の孫信道が、建久六年（一一九五）小波渡開村由緒の「オミジャ」であり、水量が豊かで年中水の増減がなく、また、凶事ある時は湯水となって村人にその前兆を示すなど、今も生活に欠くことのできない「オミジャ」として村人の変わらぬ崇敬をあつめている。

〔山形県森林協会〕



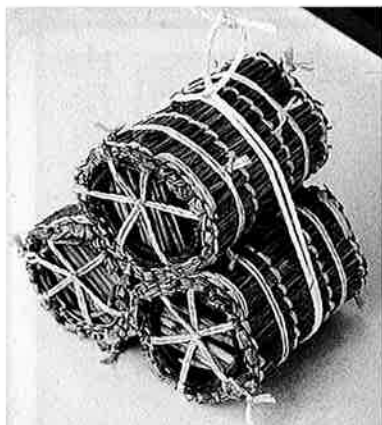
案内図



山形県内有数のイチヨウの数本の乳柱が垂れ下がるので巨樹で、崖際にあるために、乳イチヨウの名がある。しかし、正確な根まわりや目通りの幹し、雄株であり実はならない。まわりの測定はできないが、昭和二十七年四月一日、山形県天然記念物に指定されてきた。約三十七m、枝からは大小いろいろ。

〔山形県森林協会〕





山形県木炭 品評会のご案内

今年で七回目となる「木炭品評会」が、左記のとおり開催されますのでご案内します。

一、期 日

審査会 二月十五日(木)

表彰式 二月十六日(金)

二、会 場

飯豊町民総合センターあぐす

三、審査対象

・ 通常部門 (黒炭・白炭)

・ 創作部門

四、表 彰

山形県知事賞、飯豊町長賞等

炭焼き体験 ツアーのご案内

毎年恒例の「炭焼き体験ツアー」が左記のとおり開催されますのでご案内します。

一、期 日

炭焼き体験 二月十五日(木)

交流会 しらさぎ荘泊

炭俵製作体験

二月十六日(金)

二、会 場

・ 飯豊町内炭焼小屋

・ 飯豊町東部公民館

三、申し込み締切

二月十三日(火)

(参加費一〇、〇〇〇円)

【問い合わせ先】

「山形県木炭品評会」、「炭焼き体験ツアー」ともに、

西置賜ふるさと森林組合

☎〇二三八―八六一―二三二〇

お問い合わせ下さい。

——全国食用きのこ種菌協会会員——

〒999-7757

山形県東田川郡余目町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

きのこ作りなら。

◎形質を誇る!

○しいたけ・なめこ

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)

F A X 0234(42)1124

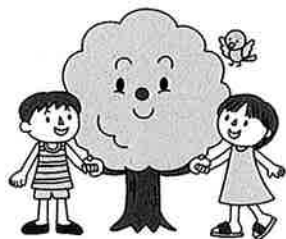
青森県営業所：青森県三戸町同心町 電話 0179(23)3582

ひらたけ・まいたけ・ぶなはりたけ

くりたけ・たもぎたけ・むきたけ

その他きのこ種菌

山形県緑化事業協同組合連合会



会 長 齋 藤 博

専務理事 富 田 昌 弘

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内

T E L 023-632-5148

F A X 023-641-9288

山形県治山林道 研究発表会のご案内

平成十二年度の発表会が左記のとおり開催されますので、ご参加ください。

1、日時

平成十三年三月一日（木）
十時～十七時

2、会場

山形国際交流プラザ
（山形ビッグウイング）

3、参加者

四階中会議室
県及び市町村の林務職員
治山林道技術関係団体

4、主催

山形県、山形県森林協会

5、問い合わせ先

山形県森林協会

もり 森林の鼓動が聞こえますか…

森林を守り育てる「林業従事者」の育成と確保を目指して



財団法人 山形県林業従事者育成基金

（山形県林業労働力確保支援センター）

☎990-2334 山形市蔵王成沢字町浦535番地
山形県森林組合連合会内
電話(023)688-8220 F A X (023)688-8103



素	樹材種		材長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較	
	スギ小丸太	3.65～4.00m		込		11,900円	+100
スギ中丸太	//		//		16,600円	-100	
スギ大丸太	//		//		19,400円	+400	
材	米マツ中丸太	6.0m～		普通材	19,300円	-400	
	米マツ大丸太	//		//	23,200円	-400	
	北洋アカマツ中丸太	3.8～		//	16,400円	0	
製品	樹材種	厚	幅	長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較
	スギ柱	10.5cm	10.5cm	3.00m	特等	61,200円	+100
	米マツ柱	10.5cm	10.5cm	4.00m	//	58,600円	-900

木材市況
（一月一日現在）

森林やまがた 2月号 平成13年2月1日発行 通巻第47号

編集 山形県森林協会 山形県

発行 山形県森林協会

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内

TEL 023-631-6566 023-622-8823

FAX 023-631-6573

印刷所

渡辺活版所

定価

一部二〇円